

平成25年度魅力ある学校づくり調査研究事業実績報告書

都道府県・政令指定都市教育委員会名〔青森県教育委員会〕

1 事業実施期間 平成25年4月23日から平成26年3月25日まで

2 拠点校及び連携校

区 分	学 校 名	学級数	児童生徒数
拠点校（中学校）	五所川原市立五所川原第三中学校	15（2）	445
連携校 （拠点校中学校区 内の小学校）	五所川原市立栄小学校	18（2）	466
	五所川原市立三輪小学校	10（0）	253
		（ ）	

※学級数の（ ）には、特別支援学級数を内数として記入

※学級数及び児童生徒数は平成25年5月1日現在で記入

3 意識調査（アンケート共通項目）

（％）

学 校 種 別	学 年 等	実 施 時 期	児 童 生 徒 数 (人)	ア 学校が楽しい				イ みんなで何かをするのは楽しい				ウ 授業に主体的に取り組んでいる				エ 授業がよくわかる			
				1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
中 学 校	全 学 年 計	前年①	449	40.8	43.4	11.8	4.0	58.1	33.0	6.5	2.4	26.7	51.7	17.1	4.5	16.0	53.5	21.4	9.1
		前年②	443	39.5	44.2	9.3	7.0	56.0	32.3	8.8	2.9	22.3	54.6	17.4	5.6	12.9	50.3	27.1	9.7
		本年①	428	48.8	42.5	5.8	2.8	68.0	26.6	2.6	2.8	23.1	58.6	15.7	2.6	19.2	58.4	18.5	4.0
		本年②	429	49.3	40.2	8.2	2.3	61.2	34.8	3.3	0.7	20.8	64.5	13.3	1.4	14.5	59.8	21.7	4.0
	3	中2①	150	43.3	41.3	11.3	4.0	53.3	36.0	8.7	2.0	22.7	52.6	16.7	8.0	8.7	53.3	26.7	11.3
		中2②	144	44.4	41.7	8.3	5.6	59.0	29.2	9.0	2.8	18.1	59.7	16.0	6.3	9.7	54.2	25.7	10.4
		中3①	144	43.8	47.9	5.6	2.8	63.9	29.9	3.5	2.8	15.3	57.6	22.9	4.2	6.9	59.0	25.7	8.3
		中3②	143	46.2	44.1	7.7	2.1	60.1	35.0	4.2	0.7	18.9	61.5	17.5	2.1	14.7	53.1	23.1	9.1
	2	中1①	143	45.4	40.6	12.6	1.4	67.1	24.5	6.3	2.1	38.5	49.6	10.5	1.4	32.9	56.6	7.7	2.8
		中1②	145	40.0	42.1	8.3	9.7	57.9	31.7	6.2	4.1	26.2	53.1	16.6	4.1	15.2	51.0	25.5	8.3
		中2①	143	38.5	49.0	7.7	4.9	60.1	32.9	2.8	4.2	24.5	58.0	16.1	1.4	9.8	65.0	21.7	3.5
		中2②	145	33.3	50.7	11.1	4.9	50.0	45.1	3.5	1.4	15.3	74.3	8.3	2.1	7.6	70.1	20.8	1.4
	1	小6①	153	59.5	33.3	5.9	1.3	83.0	13.7	2.6	0.7	35.9	52.3	11.8	0.0	47.7	46.4	5.2	0.7
		小6②	154	53.2	40.9	5.2	0.6	70.8	27.3	1.9	0.0	32.5	53.9	13.0	0.6	38.3	55.2	5.2	1.3
		中1①	141	64.5	30.5	4.3	0.7	80.1	17.0	1.4	1.4	29.8	60.3	7.8	2.1	41.1	51.1	7.8	0.0
		中1②	141	68.8	25.5	5.7	0.0	73.8	24.1	2.1	0.0	28.4	57.4	14.2	0.0	21.3	56.0	21.3	1.4
小 学 校	高 学 年 計	前年①	303	56.4	34.7	5.9	3.0	75.5	20.5	3.3	0.7	35.0	50.2	12.5	2.3	48.5	42.9	6.9	1.7
		前年②	304	51.6	40.8	6.9	0.7	71.7	26.3	1.6	0.3	33.2	52.0	14.1	0.7	42.1	50.0	6.3	1.6
		本年①	274	58.8	31.8	6.9	2.6	71.2	24.5	3.3	1.1	41.2	45.6	10.9	2.2	47.4	43.8	8.0	0.7
		本年②	274	58.0	30.3	7.7	4.0	70.1	24.5	3.3	2.2	42.3	45.3	11.3	1.1	56.6	35.4	7.3	0.7
	6	小5①	150	53.3	36.0	6.0	4.7	68.0	27.3	4.0	0.7	34.0	48.0	13.3	4.7	49.3	39.3	8.7	2.7
		小5②	150	50.0	40.7	8.7	0.7	72.7	25.3	1.3	0.7	34.0	50.0	15.3	0.7	46.0	44.7	7.3	2.0
		小6①	149	57.0	33.6	6.7	2.7	66.4	28.2	4.0	1.3	38.3	46.3	13.4	2.0	38.3	50.3	11.4	0.0
		小6②	150	54.0	31.3	10.7	4.0	64.7	27.3	4.7	3.3	45.3	42.0	12.0	0.7	54.0	37.3	8.0	0.7
	5	小5①	125	60.8	29.6	7.2	2.4	76.8	20.0	2.4	0.8	44.8	44.8	8.0	2.4	58.4	36.0	4.0	1.6
		小5②	124	62.9	29.0	4.0	4.0	76.6	21.0	1.6	0.8	38.7	49.2	10.5	1.6	59.7	33.1	6.5	0.8

学 校 種 別	学 年 等	実 施 時 期	児 童 生 徒 数 (人)	オ 叩かれたり、けられ たり、強く押されたり した				カ 暴力ではないが、い じわるをされたり、イヤ な思いをさせられたり した				キ 叩いたり、けったり、 強く押ししたりした				ク 暴力ではないが、い じわるをししたり、イヤ な思いをさせたりした			
				1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
中 学 校	全 年 計	本年①	428	90.0	7.2	1.2	1.6	84.8	11.7	0.9	2.6	86.7	9.6	2.3	1.4	85.0	12.1	1.6	1.2
		本年②	429	87.2	9.1	1.9	1.9	83.7	11.4	2.1	2.8	84.1	12.8	1.9	1.2	83.2	13.5	1.9	1.4
	3	中3①	144	91.0	6.3	0.7	2.1	84.0	12.5	0.7	2.8	91.0	6.3	0.7	2.1	85.4	11.1	2.1	1.4
		中3②	143	94.4	4.2	0.0	1.4	92.3	3.5	0.7	3.5	93.0	5.6	0.7	0.7	91.6	7.0	1.4	0.0
	2	中2①	143	91.6	5.6	0.7	2.1	83.2	11.9	2.1	2.8	90.2	7.0	0.7	2.1	83.9	14.0	1.4	0.7
		中2②	145	82.8	11.0	3.4	2.8	75.9	19.3	1.4	3.4	77.2	17.2	2.8	2.8	77.2	17.2	2.1	3.4
	1	中1①	141	87.2	9.9	2.1	0.7	87.2	10.6	0.0	2.1	78.7	15.6	5.7	0.0	85.8	11.3	1.4	1.4
		中1②	141	84.4	12.1	2.1	1.4	83.0	11.3	4.3	1.4	82.3	15.6	2.1	0.0	80.9	16.3	2.1	0.7
小 学 校	全 年 計	本年①	274	72.6	17.9	5.5	4.0	63.5	22.3	6.6	7.7	71.9	20.8	4.4	2.9	66.1	26.6	5.5	1.8
		本年②	274	67.5	19.7	7.3	5.5	62.4	24.8	7.3	5.5	67.2	21.9	7.7	3.3	67.9	22.6	6.6	2.9
	6	小6①	149	68.5	20.1	6.7	4.7	59.1	27.5	6.0	7.4	69.1	22.1	5.4	3.4	63.1	28.9	6.0	2.0
		小6②	150	64.7	21.3	8.7	5.3	55.3	28.7	10.0	6.0	62.7	28.7	7.3	1.3	60.0	29.3	8.7	2.0
	5	小5①	125	77.6	15.2	4.0	3.2	68.8	16.0	7.2	8.0	75.2	19.2	3.2	2.4	69.6	24.0	4.8	1.6
		小5②	124	71.0	17.7	5.6	5.6	71.0	20.2	4.0	4.8	72.6	13.7	8.1	5.6	77.4	14.5	4.0	4.0

※小学校は、連携校の合計

※実施時期の第1回(①)は5月ごろ、第2回(②)は12月ごろに実施したもの

※「オ」～「ク」の項目は、平成25年度から実施

※本年度第2回(②)以外は、「ブロック協議会資料」に記載した数値を記入

4 課題・目標・取組

課題	基礎学力と基本的な生活習慣の定着が十分でなく、また自分の思いや考えをうまく伝えられない児童生徒が多い。
目標	基礎学力と基本的な生活習慣を身に付け、主体的な態度と好ましい人間関係を築くことができる児童生徒を育成する。
取組	学び合いのある授業による主体的態度と人間関係づくり、基礎学力の定着そして基本的な生活習慣の確立に向けた取組を行う。

5 重点推進事項

小・中 共通	① 学び合いのある授業づくりの構築 ② 家庭学習と基本的な生活習慣の確立 ③ 行事を通じた異年齢集団の交流促進 ④ 学区教育研究会の充実
中学校	① 道徳、特別活動、総合的な学習の時間、行事等の全ての教育活動において、人とのかかわりや主体的な活動を促すことに重点をおいた計画、指導に努める。
小学校	① 縦割り班活動を通し、挨拶運動や清掃、集会活動でのふれあいによる交流を促進する。(全校) ② 上学年が下学年に身に付けた技術を伝えたり、発表に招待するなどして、授業を通して学年を越えた交流を図る。(栄小) ③ iDOMjr (イドムジュニア) による両校同一問題の漢字テストを行い、テスト分析と考察をして定着を図る。(全校)

6 意識調査結果の分析と考察

成 果	成果があがったと考えられる主な理由
(1) 項目アについて ・小・中学校の全学年で肯定的な回答が8割を超えている。	(1) 「学び合いのある授業」の導入が図られ、授業の楽しさを感じる児童生徒が多かった。また、学校行事や小学校での縦割り班活動による挨拶運動、清掃活動、集会活動等の交流を通し、活動意欲や自己有用感が高まった。
(2) 項目イについて ・小・中学校とも肯定的な回答が2年間とも9割を超えている。	(2) 小学校では(1)と同様に縦割り班活動の交流が考えられる。中学校では「学び合いのある授業」でグループ学習を取り入れたり、生徒会活動、部活動、行事においては3年生がよきリーダーとなり、よりよい人間関係のもとでの活動が展開された。
(3) 項目オ・カ・キ・ケについて ・小学校では85%、中学校では95%の肯定的な回答となっている。	(3) (1)や(2)の不登校未然防止の取組が「いじめ」の防止にも有効に作用している。また、各学校におけるいじめアンケートと意識調査が、児童生徒のいじめの問題への意識を高めている。

課 題	課題として残ったと考えられる主な理由
(1) 項目ウ・エについて ・小・中学校とも否定的な回答が横ばい状態で好転していない。「授業がよくわかる」で中学校2年生が「1」と回答した割合が減少しており1年生では昨年同様半減している。	(1) 「学び合いのある授業」では学習意欲が喚起されても、主体的な活動場面が不足していたり、定着が十分に図られていないことが上げられる。1・2年生の後半になるにつれ、学習内容が難しくなり、理解に時間がかかる生徒が増えている。また、家庭学習の習慣が身に付いていない生徒も多く、学習内容の定着が不十分となっている。1年生は昨年の傾向を踏まえ、意識調査の結果はある程度予想されたが、授業以外での対策を講じることができなかった。

7 2年間の調査研究の成果と課題

[小・中共通]

① 学び合いのある授業づくりの構築

- 「3合い 聞き合い、伝え合い、教え合い」をテーマとして、指導過程に自分の考えをもち、意図的に他者とのかかわりを深める場面を設定した「学び合いのある授業」づくりを推進した結果、学習意欲の向上と級友との好ましい人間関係を築ける児童生徒が増えてきた。また小・中学校とも地域設定項目の「聞くこと」「伝えること」の肯定的回答が増えた。
- 「学び合いのある授業」づくりが今年度からスタートしたこともあり、指導方法について教師に温度差があり、意識調査結果から、児童生徒の主体的な学習については、学級や学年で差が見られる。学年、学級によっては聞くことや小グループでの伝え合いはできるが、全体の場で伝え合うことにまだ苦手意識をもつ児童生徒がいる。「聞き合い、伝え合い」に重点が置かれ「教え合い」にまで至っていない。

② 家庭学習と基本的な生活習慣の確立

- 言葉遣いに焦点を当てた「言葉の基本五か条」をポスターとして全学級に掲示して指導に当たった。さらに中学校では委員会活動を通して浸透に努めた結果、全学年とも地域設定項目の評価が上がった。
- 「家庭学習の手引き」によるオリエンテーションや家庭の協力のもとに時間数調査等を進めているが、中学校ではまだその効果が意識調査には表れていない。中学校1年では落ち込みが見られ、具体的な対策を講じることができなかった。

③ 行事を通じた異年齢集団の交流推進

- 児童会生徒会リーダーによる一日入学の計画やレクリエーションを通し、連携校の小学生同士、小・中学生同士の心の距離感を縮めることができた。中学生はリーダーとしての自覚が芽生え、小学生はお互いに交流を深めることができた。さらに、6年生の一日入学が、中学生によって立案・実行されたことで、児童は五所川原第三中学生のようになりたいという憧れを抱くようになった。
- 限られた児童生徒だけの交流にとどまっているため、さらに拡大し全5、6年生全児童と中学生の交流の場をどのように設定するかが課題として残った。

④ 学区教育研究会の充実

- 五三中学区教育研究会を母体として小・中学校の先生方が共通理解して事業を推進することができた。小・中学校の先生方相互の交流が深まり、課題や取組について焦点化した協議ができたことで、全ての指定校で共通した取組を実践することができた。
- 校種により学校文化が異なるため、指導方法を同じにすることは難しかった。

[中学校]

- ① 道徳、特別活動、総合的な学習の時間、行事等の全ての教育活動において、人とのかわりや主体的な活動を促すことに重点をおいた計画をし指導に努める。
- 意識的に計画段階で人とのかわりや主体的な活動を促す場面設定をしたことで生徒は達成感や自己有用感を味わうことができた。
 - ・ 第2回530（ゴミゼロ）ボランティア活動を実施し、地域の家庭を訪れて廃品回収を行うなど、地域の方々との交流を深めた。
 - ・ 3年生は職場体験を通して、家庭科部は保育園訪問を通して、地域の方や園児との交流を深めた。
 - まだ教師の援助が必要な場面が多く、より主体的な取組を充実させるためにはリーダーの育成が必要である。

[小学校]

- ① 縦割り班活動を通し、挨拶運動や清掃、集会活動でのふれあいによる交流促進（全校）
- 挨拶運動、清掃活動、集会活動での交流活動に積極的に取り組むことで、友だち、先生方、地域の方との心の交流を図ることができた。
 - ・ 縦割り班清掃や児童集会等の取組を通して、中休みや昼休みの時間にも異学年で遊んだり話をしたりするなど、高学年が低学年の世話をする様子が多く見られるようになってきた。
- ② 異学年交流授業の促進を図る。（栄小）
- 交流授業が定着し、異学年が違和感なく交流を深めており、上級生の下級生に対する思いやりの心や自己有用感の高まりが表れてきている。
 - 学年の組み合わせや合同授業を実施するための日程や内容等に調整が必要である。
- ③ iDOMjr（イドムジュニア）による両校同一問題の漢字テストを実施し、テスト分析と考察を行い定着を図る。（全校）
- 取組への意識が薄かったため、同一問題の実施と2校間でのデータ交換にとどまった。

8 取組内容

(1) 月別実施内容

※「実施状況」の欄は、次の記号で取組内容ごとに示す。

- ・・・予定どおり実施 △・・・時期を変更して実施又は実施予定
- ◇・・・計画書にはないが新たに実施 ×・・・実施しなかった

〈平成24年度〉

月	小学校における主な実施内容	実施状況	中学校における主な実施内容	実施状況
4月	こんにちは集会（栄小・全学年） 児童集会（縦割り班組織会）（三輪小・全学年） 縦割り班活動による挨拶運動、清掃活動（毎月、全校・全学年）	○ ○ ○	第1回小・中連絡協議会【小中合同】 第1回連絡協議会〔東京〕（小・中）	○ ○
5月	第1回意識調査（全校）	○	第2回小・中連絡協議会【小中合同】 第1回意識調査 第1回魅力ある学校づくり調査研究委員会【小中合同】	○ ○ ○
6月	運動会（三輪小・全学年）	○	第3回小・中連絡協議会【小中合同】 第1回学区小中合同研究会授業公開【小中合同】	○ ○
7月	iDOMjrによる第1回漢字テスト（全小・4～6年）【小小合同】 小中非行防止JUMPチームによる学区内商業施設での非行防止キャンペーン活動（全校5・6年）	○ △	第4回小・中連絡協議会【小中合同】 小中非行防止JUMPチームによる学区内商業施設での非行防止キャンペーン活動（全学年）	○ △
8月	中学生によるチューター学習会（全小・5年） リーダー研修会（全小5・6年）	△ ○	小学生へのチューター学習会（2年） リーダー研修会（2・3年） 第2回学区小中合同研究会【小中合同】	△ ○ ○
9月	なかよし集会（栄小・全学年）	○	第5回小・中連絡協議会【小中合同】	○
10月			職場体験学習（3年）	○
11月	第3回学区小中合同研究会授業公開（栄小） 第2回意識調査（全校） 児童集会（三輪小・全学年）	○ ○ ○	第6回小・中連絡協議会【小中合同】 第3回学区小中合同研究会授業参観【小中合同】 第2回意識調査 第3回学区小中合同研究会【小中合同】 ブロック協議会〔千葉市〕（小・中）	○ ○ ○ ○ ○
12月	iDOMjr（イ・ド・ムジューニア）による第2回漢字テスト（全校4～6年）【小小合同】	○		
1月			第7回小・中連絡協議会【小中合同】	○
2月	6年生一日入学（全校6年） さよなら集会（栄小全学年）	○ ○	第2回魅力ある学校づくり調査研究委員会 一日入学（2年） 第2回連絡協議会〔東京〕（小・中）	○ ○ ○
3月			第8回小・中連絡協議会【小中合同】	△

〈平成25年度〉

月	小学校における主な実施内容	実施状況	中学校における主な実施内容	実施状況
4月	こんにちは集会（栄小・全学年） 児童集会（縦割り班組織会）（三輪小・全学年） 縦割り班活動による清掃、挨拶運動（全校・全学年・毎月）	○ △ ○	○第1回小・中連絡協議会【小中合同】 第1回連絡協議会〔東京〕（小・中）	○ ○
5月	第1回意識調査（全小）	○	第1回魅力ある学校づくり調査研究委員会 第1回意識調査 第2回小・中連絡協議会【小中合同】	○ ○ ○
6月	運動会（三輪小・全学年） 授業研究（全校）	○ △	第3回小・中連絡協議会【小中合同】 第1回学区小中合同研究会授業研究①（教科）【小中合同】 授業研究②（道徳・学級活動）	○ ○ ○
7月	iDOMjr（イ・ド・ムジューニア）による第1回漢字テスト（全校4～6年）【小・小合同】	○	第4回小・中連絡協議会【小中合同】 リーフレットの作成	○ ○
8月	リーダー研修会（全校5・6年）	○	リーダー研修会（2・3年） 第2回学区小中合同研究会【小中合同】	○ ○
9月	なかよし集会（栄小・全学年）	○	第5回小・中連絡協議会【小中合同】 職場体験学習（3年） 家庭科部保育園訪問	○ △ ◇
10月	授業研究（全校）	○	第6回小・中連絡協議会【小中合同】 ブロック協議会〔水戸市〕（小・中）	○ ○
11月	第3回学区小中合同研究会研究発表会【小中合同】 児童集会（三輪小・全学年）	○ ○	第3回学区小中合同研究会研究発表会【小中合同】 第7回小・中連絡協議会【小中合同】	○ ○
12月	iDOMjr（イ・ド・ムジューニア）による第2回漢字テスト（全校4～6年）【小小合同】 第2回意識調査（全校）	○ ○	第8回小・中連絡協議会【小中合同】 第2回意識調査	○ ○
1月			第9回小・中連絡協議会【小中合同】	○
2月	さよなら集会（栄小・全学年） 6年生一日入学（全校・6年）	○ ×	第10回小・中連絡協議会【小中合同】 第2回連絡協議会〔東京〕（小・中） 第2回魅力ある学校づくり調査研究委員会【小中合同】 一日入学（2年）	○ ○ ○ ×
3月				

(2) 重点推進事項の実施状況

〔小・中共通〕

① 学び合いのある授業づくり

「3合い 聞き合い、伝え合い、教え合い」をスローガンとして指導過程に自分の考えをもち、意図的に他者とのかかわりを深める場面を設定する授業づくりを実践した。

○ 「魅力ある学校づくり調査研究事業調査研究発表会」の開催

11月15日（金）、栄小学校と五所川原第三中学校を会場に市内、県内外の先生方の参加のもと、小・中学校それぞれで学び合いのある授業公開と事業の実践報告、そして城戸茂先生から「魅力ある学校づくりについて」の演題で記念講演をしていただいた。小・中学校とも全学級授業を公開し、その中で栄小学校では1・2年生、1・5年生の異学年交流授業も公開した。五所川原第三中学校では1年生が学級活動、2年生が教科、3年生が道徳を公開した。指導案に学び合いのある授業のとらえ方と本時の工夫点を明記した。



研究発表会 講演会

【栄小学校】

「学び合いのある授業」を「子ども同士のかかわり合いのある授業」ととらえ、授業づくりに取り組んだ。

○ 指導過程の中に子ども同士がかかわり合う場面を設定し、かかわり合いを授業の目標達成に効果的に活用する工夫をした。

○ 「本時の提案事項」は、本時の学習に当たって、どのようなねらいで、どのようなかかわり合いをさせたいのか、「子ども同士のかかわり合いのある授業」の手立てを示した。



3年 理科 栄小

【五所川原第三中学校】

○ 指導過程における「学び合い」の場面を次のように設定し、その場面における工夫点を、校内研究とのかかわりの項目に記述した。また、これらの「学び合い」が、主体的な学習態度や共感的態度の育成、学習内容の定着にどのようなつながるのかを簡単に記述するようにした。

〔学び合いの場面〕

- ・課題に対して自分の考えをもつ。
- ・意見を交流させる。(伝える・聞く)
- ・生徒が個人、または周囲と共に考えを高め合う。
- ・学習を振り返る。

… [考えをもつ]

… [交流する]

… [高め合う]

… [振り返る]



3年 道徳 五三中

【三輪小学校】

- 課題達成度を示すためにネームプレートを利用した取組を行った。これは1つの説明ができたなら、その都度動かすこととし、達成度をできるだけ可視化できるようにした。1つめが終わったら、次に黄色のネームプレートを貼り、2つめができたなら裏返して色を変える。3つめができたなら、「ミニ先生」のコーナーに貼り、3つとも課題を達成できた児童に質問をしたり、評価をしてもらったりする。終わっていなくても、わからないことを教え合ったり、相談したりすることができるように、進度に合わせて声をかけるようにした。さらに異学年による学び合い学習を展開している。



異学年「教え合い」三輪小

この「学び合いのある授業」を校内研究とタイアップして進め、各先生方に今までの自分の授業のあり方を考えてもらい、授業改善に積極的に取り組むことができた。小学校では児童の主体的な学習に結び付くようになってきた。特に三輪小学校では「ウ 授業に主体的に取り組んでいる」「エ 授業がよくわかる」の2項目で、6年生の12月の評価結果が過去2年で一番よくなり、学級、学校としての取組が成果として表れた。

② 家庭学習と基本的な生活習慣の確立

- ・ 学区教育研究会の学習指導部で作成した「家庭学習の手引き」を使い、オリエンテーションを行い、親子で取り組む家庭学習として、家庭学習の記録をつけてもらった。小学校では小小共通の振り返りカードを活用したことで、家庭学習の習慣化が図られた。

5・6年の家庭学習

自ら予定を立て、自分で学習を進めよう。

学習の計画

自主学習の例

学習の振り返り

振り返りカード

家庭学習の記録表

学習の振り返り

振り返りカード

家庭学習の手引き

学習の振り返り

振り返りカード

- ・ 小・中学校共通の課題である言葉遣いについて「言葉の基本五か条」を決め、指定校全ての学級に掲示した。中学校では委員会や学級活動に取り入れて実践に努めた結果、生徒の意識が高まり、意識調査の地域設定項目「言葉の基本五か条をがんばっている」でも高い評価となった。



③ 行事を通じた異年齢集団の交流促進

- ・ リーダー研修会と一日入学（全校5・6年生と中学生）
各小学校児童会役員と中学校生徒会役員が集まり、「集団づくりのエクササイズ」を通して交流を図ったり、一日入学での交流レクを考えたりした。一日入学では中学生が各小学生のリーダーとなってゲームの説明や進行を務めた。その結果、小学生が中学生に対して憧れを抱くようになったり、中学生は達成感と自己有用感を持ったりすることができた。



④ 小・中学校連携による学区教育研究会の充実

- 小・中学校教員による相互授業参観や研究協議会を通して「学び合いのある授業」について共通理解を図ったり、3つの指導部会（学習指導部会・生徒指導部会・保健指導部会）による児童生徒の相互理解と課題解決の取組を推進した。この指導部会がうまく機能し、学区教育研究会や小中連絡協議会の話し合いを通して各学校の実情を把握でき、課題が明確になったので対策を立てることができた。



〔中学校〕

① 全ての教育活動において、人とのかかわりや主体的な活動を促すことに重点をおいた計画、指導に努める。

- 530（ゴミゼロ）運動（地域リサイクル回収運動）では地域の方が車で新聞紙やアルミ缶を運んだり、自転車の荷台に新聞を紐で固定してくれたりと地域の方々の優しさにふれることができた。
- 家庭科部の保育園訪問では手作りのゲームを持参し園児との交流を深めた。また職場体験学習でも事業所の方々から仕事内容を丁寧に教えてもらったり、高齢者施設に通っている方と一緒に買い物に行ったりするなど貴重な体験をすることができた。



〔小学校〕

① 縦割り班活動を通し、集会活動でのふれあいにより交流を図っている。（全校）

- 全校で縦割り班ごとにゲームやレクリエーションを行い、異学年による交流の機会を設けた。リーダー性を身に付けたり、好ましい人間関係を築くことができた。また、学年を超えた交流が深まり、挨拶運動、清掃活動等、自主的に取り組む児童が増えた。



② iDOMjr（イドムジュニア）による両校同一問題の漢字テストを行い、テスト分析と考察をして定着を図っている。（全校）

- 学力定着の取組の一つとして、学期に1回25問の漢字テストを行った。合格点を設定して各学年や学級の通過率を調べ、正答率の低かった児童へは補充学習等を行うことにより正答率が上がり定着に結び付いた。

③ 上学年が下学年に身に付けた技術を伝えたり、発表会に招待したりするなどして、授業を通して学年を超えた交流を図っている。（栄小）

- 交流学习（異学年交流）が活発に行われ、上級生が下級生の面倒をみたり、教えたりすることで、下級生が上級生に憧れの気持ちを抱くなど児童間のつながりが深まった。また、教師間の連携も深まった。

9 事業担当者の活動内容

(1) 活動内容 ※加配教員の主な活動内容を記入する。

実施要項の該当箇所		活動内容
4 (1)	事業全般	①事業実施日程の確認、調整 ②小・中連絡協議会の企画、運営 ③学区小中合同研究会の計画、運営
4 (2)	小・中連携	①中学生によるチューター学習会の計画、運営 ②中学校JUMPチームと小学校リトルJUMPチームによる非行防止キャンペーンの計画、運営

		③小・中学校合同でのリーダー研修会の実施
	小・小連携	① iDOMjr (イドムジュニア) 漢字テストの実施計画
4 (3) データ収集、分析等		①意識調査様式の決定と実施 ②意識調査集計結果の集計、分析
4 (4) 取組の評価		①意識調査集計分析結果の考察、評価 ②意識調査集計分析結果の考察、評価から成果と次年度取組課題の検討
4 (5) 資料作成、広報等		①研究収録の作成、配付 ②リーフレットの作成

(2) 事業推進上の成果と課題

〈成果〉

- ・ 以前から実施してきた五三中学区教育研究会を土台としてスムーズに小中連携を進めることができた。また、この学区教育研究会の場を活用し、事業の趣旨や取組の共通理解を図ることができた。
- ・ 小・中連絡協議会での協議や意識調査を通し、各学校の実情を把握でき、課題が明確になった。
- ・ 1年目の反省を生かし、2年目ではより実態に即した取組ができるようになった。

〈課題〉

- ・ 2年目に授業における取組の変更があり、小・中学校が共通して取り組む具体的な内容について決定するまで時間を要した。また、「学び合いのある授業」づくりの基本的な考え方については共通理解を図ることができたが、細かな指導方法までの合意に至らず、各学校で児童生徒の実態に即して実施していくことになった。
- ・ チェックシートの活用が不十分で、目標や取組を定期的に確認しながら進めていく必要があった。
- ・ この事業に対する教員の取組に温度差があり、意識付けを図っていく必要があった。

10 教育委員会の取組

(1) 市町村教育委員会

〔重点推進事項〕

- ・ 学び合いのある授業について校内研究での学習会や指導案検討会、授業参観を通し、その構築に向け指導・助言を行った。
- ・ 小小連携、小中連携、小中合同などの具体的な取組に対して、人、物を有効に活用できるよう支援を行った。
- ・ 11月15日に開催した調査研究発表会（授業公開）に向けての計画、支援を行った。

〔成果と課題〕

- 今年度より取り組んだ「学び合いのある授業」づくりについて、学び合いについて授業研究を通して指導・助言を行った。
- 調査研究発表会（授業公開）に向けた授業づくりや指導案の検討会を実施した。
- 調査研究委員会及び小・中連絡協議会において計画、評価等を行い事業の推進及び充実を図った。
- 小小連携、小中連携、小中合同などの具体的な取組に対して、指定校の実践に対し、人的、物的、予算的な面において、きめ細やかに対応し支援する必要があった。
- 取組の実践を行った後や意識調査の後に、チェックリストを活用して、見直しや改善を図るよう支援が必要であった。

(2) 都道府県教育委員会

〔重点推進事項〕

- ・ 市教育委員会の取組に対する支援及び指導・助言
- ・ 本事業の取組及び成果についての県内への啓発

〔成果と課題〕

- 市教育委員会の指導主事とともに、教育事務所の指導主事が本事業に係る調査研究委員会や小・中学校連絡協議会に参加したことにより、本事業の進捗状況や成果及び課題等について、管理職や各学校事業担当教員等との意思疎通を図ることができた。
- 本事業の指定地域の具体的な取組を不登校対策研修会や県内生徒指導担当指導主事研修会等において紹介したことにより、各学校での不登校未然防止に向けた今後の具体的な取組の参考となった。
- きめ細かい調査研究の推進のために、県教育委員会として市教育委員会や学校との連携にもう少し多くの時間をとる必要があった。
- 小・小連携の促進のため、他地域の先進的な取組に関する情報提供を行うなど、より積極的な支援をする必要があった。

11 「魅力ある学校づくり調査研究委員会」

(1) 構成

所属	人数	備考（主な職名等）
五所川原市立五所川原第三中学校	3	校長、教頭、教諭
五所川原市立栄小学校	3	校長、教頭、教諭
五所川原市立三輪小学校	3	校長、教頭、教諭
五所川原市教育委員会	2	主任指導主事、指導主事
西北教育事務所	1	指導主事
青森県教育委員会	1	指導主事
学識経験者	1	中学校校長退職者

(2) 事業推進上の成果と課題

〈成果〉

- ・ 2年間構成メンバーに変更がなかったため、意思統一が図られ、本事業と学区教育研究会の計画、運営をスムーズに行うことができた。
- ・ 小・中学校が同一歩調で事業を展開できたことにより、連携を一層深めることができた。

〈課題〉

- ・ 本事業調査研究委員会での決定事項を各学校の担当で協議する場が必要となる。委員会に所属していない教務主任・研修主任・生徒指導主任（主事）・児童会生徒会担当者等が、互いに日程調整や具体的な取組内容を協議できるように配慮していくことが大切である。

12 作成資料等

〈平成24年度〉

- リーフレット「魅力ある学校づくりに向けて」

〈平成25年度〉

- 魅力ある学校づくり調査研究発表会大会要項
- リーフレット「不登校の未然防止に向けて」

13 関連URL（※本事業に関連するものがあれば、ご紹介ください。）

なし

【問い合わせ先】

所属	青森県教育庁学校教育課			電話	017-734-9897		
職名	指導主事	氏名	近藤 鉄也		よみがな	こんどう	てつや